

## VI. 研究

## 1. 研究活動

### (1) 研究業績

#### 1) 研究業績基準

##### <著書>

(1 1 学術書) 博士論文、単・共・編著を問わないが直接執筆に参加した専門書。編者のみの場合は(1 2その他)とする。

(1 2その他) 学術書以外の専門分野の著書(教科書、入門書、啓蒙書等)。

##### <学術論文(原著論文)>

(2 1 学会誌) 学会誌及び専門誌等で査読を受けた論文。

(2 2 紀 要) 査読を受けた紀要論文。査読を受けない論文は(2 3その他)とする。

(2 3その他) 上記以外の学術論文。

##### <学術論文(総説)>

(2 4 総 説) 学会誌や専門誌などに掲載された総説、解説、展望等。

##### <翻訳>

(3 1 学術書) 専門書及び専門分野における教科書、入門書等。

(3 2その他) 専門分野以外の翻訳書。

##### <作品及び演奏発表等>

(4 1 作品及び演奏発表等)

情報処理による絵、音楽等の作品で公的に発表されたもの。

体育・スポーツの分野における作品で公的に発表されたもの。

(例：ダンス、体操などの発表)

##### <学会記録>

(5 1 一般発表) 学会及び各種学術研究会での発表で記録に残るもの。

(5 2 特別講演)

(5 3 シンポジウム、パネル)

(5 9 その他)

##### <口頭発表 記録に残らないもの>

(6 1 一般発表) 学会及び各種学術研究会での発表で、その内容は記録に残らないが発表年月日・機関・題目が残るもの。

(6 2 一般発表)

(6 3 シンポジウム、パネル)

(6 9 その他)

##### <その他の文筆活動>

(7 1 その他の文筆活動)

公的に発刊された出版物に掲載された著作で、専門・専門外を問わないが業績としてふさわしい水準のもの。

##### <その他>

(8 1 症例研究(医))

(8 9 その他) 上記の全ての業績区分に含まれないが、業績としてふさわしい水準のもの

(注) 本基準の運用については各学科に任せるものとする。

#### 2) 研究業績一覧

学科	著書		学術論文		翻訳		作品演奏		学会記録		口頭発表		その他の文筆活動		その他		計
	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	単著	共著	
情報処理科	—	—	1	6	—	—	—	—	3	1	1	2	—	—	—	—	14
国際文化学科	4	—	10	2	—	—	—	—	2	1	2	—	7	—	—	—	28
計	4		19		—		—		7		5		7		—		42

<研究業績表の見方>

著者・発表者	著書・論文・演題名等		
発行所・掲載誌・学会等	巻・号	ページ	発表形態
	概	要	

<研究業績内容>

《情報処理科》

矢原充敏、藤本邦昭、佐々木博文	A Multiplier with Low Jitter Using Multi-phase Clock Divider		
ISII2008	E1-05, ISII2008-244		学術論文(欧文学会誌)
多相クロックを用いた通倍回路について提案している。			
藤本邦昭、佐々木博文、矢原充敏	A Dividing Ratio Changeable Digital PLL with Low Jitter Using Phase State Memory		
International Journal of Innovative Computing, Information & Control	Vol.5, No.2	pp.521-531	学術論文(欧文学会誌)
本論文では、位相状態記憶方式の分周器可変型デジタルPLLを提案し、定常状態における出力ジッタを基準クロックの1パルス幅に低減できることについて述べている。			
藤本邦昭、矢原充敏、佐々木博文、石岩	A Dividing Ratio Changeable Digital PLL with Low Output Phase Noise		
ICICIC 2008			学術論文(欧文学会誌)
入力位相雑音の影響を抑制することができる分周比可変型デジタルPLLについて提案している。			
藤本邦昭、佐々木博文、矢原充敏	位相状態記憶制御とダブルクロックエッジ検出に基づく分周比可変型デジタルPLL		
電気学会論文誌C	Vol.128, No.7	pp.1185-1190	学術論文(和文学会誌)
入力信号1周期前の位相制御状態を記憶し、これを次の周期の位相制御に用いると共に、基準クロックの立上がりおよび立下りを利用することによって、低ジッタ、高速引込み、広同期範囲特性を同時に実現できる分周比可変型デジタルPLLを提案している。			
藤本邦昭、矢原充敏、佐々木博文	多相クロック分周器に基づく低ジッタ特性の分周比可変型デジタルPLL		
電気学会論文誌	Vol.129, No.3	pp.399-405	学術論文(和文学会誌)
多相クロック分周器を用いた分周比可変型のデジタルPLLを提案し、出力ジッタを多相クロックの1位相差分に低減できることについて述べている。			
宮川幹平、成嶋弘	ユニサイクルグラフにおける部分重み付け関数の最節約拡張について		
東海大学短期大学紀要	第42号	pp.81-86	学術論文(紀要)
ただひとつのサイクルを含むグラフに対する最節約拡張を特徴づけ、それらを全列挙する再帰的アルゴリズムを示した。			
八尋剛規	学生カルテシステム(SRMS)の運用と効果		
私立大学情報教育協会 大学教育と情報	Vol.17 No.1	pp.35-37	学術論文(その他)
東海大学福岡短期大学における学生カルテシステムの開発経緯・目的、概要、運用の効果、今後の課題について報告している。			
伊津信之介	日本語学習にふさわしい教材管理システム「ELMM」の開発		
中国日本語教育研究会 2008 年度年会並びに日本語教育・日本学研究国際シンポジウム			学会記録(一般発表)
フラッシュ WEB 教材を CMS の XOOPS2 モジュールとして開発し、遠隔地間の教材管理と活用の便を図った。			
伊津信之介	CMS で管理する日本語学習サイト JPSOC.NET のフラッシュ WEB 教材		
日本教育工学会研究会「日本語教育と教育工学」			学会記録(一般発表)
JPSOC.NET 日本語サイトにおけるフラッシュ教材をフラッシュ WEB 教材として統合した。			
末松泰子	検定対策講座のリメディアル教育的要素—日商 P C 検定《データ活用》の場合—		
日本リメディアル教育学会第 4 回全国大会 発表予稿集		pp.107-108	学会記録(一般発表)
日商 P C 検定《データ活用》の対策講座がリメディアル(補習)教育の要素を持つか検証			
矢原充敏、磯口博、藤本邦昭、佐々木博文	演算増幅器を用いた単安定マルチバイブレータの設計法に関する一検討		
日本知能情報ファジィ学会ソフトサイエンス研究部会第 19 回ソフトサイエンス・ワークショップ講演論文集		pp.29-30	学会記録(一般発表)
演算増幅器を用いた微分形式の単安定マルチバイブレータの設計法に関して提案している。			
矢原充敏	広同期範囲を有する分周比可変型デジタルPLLとその低ジッタ化に関する研究		
熊本知能システム技術研究会			口頭発表(シンポジウム)
分周比可変型デジタルPLLの研究内容について招待講演を行った。			
宮川幹平・竹内裕二	社会で「生きる力」を育むための教育実現とその運用		
九州地区私立短期大学協会定例総会			口頭発表(その他)
本学が採択された現代 GP・教育 GP の取り組み事例について、その背景として本学を取り巻く状況を説明したほか、本学の教育改革の取り組みの中核となるコンセプト(学生カルテ、e-Learning、個別指導 etc.) について紹介を行った。			
矢原充敏、竹内裕二	「質の高い大学教育推進プログラム」採択事例報告		
九州造形短期大学 FD 委員会研修会			口頭発表(その他)
平成 17 年度に採択された現代 GP と平成 20 年度に採択された教育 GP の取り組みについて発表を行った。			

《国際文化学科》

大方優子	旅行者意思決定モデルに基づく観光地のマーケティング戦略		
博士論文(東京都立科学技術大学)			著書(学術書)
観光地に赴く旅行者の意思決定プロセスを体系化しモデルとして提示した。そして提示されたモデルに基づき、旅行者の視点を採り入れた観光地のマーケティング戦略策定のための基本的枠組みを提唱した。			

<b>張あんな</b>	中国成語故事			
天津社会科学出版社			p. 488	著書 (学術書)
外国人または中国語中上級者のための四字熟語読解事典である。本書は中国人が日常言語生活でよく使う四字熟語約300項目を精選し、意味内容、出典、故事を簡潔明瞭に解説するように工夫した。その内容から過去の漢民族が生み出した思想や倫理の深さに魅せられるとともに、改めて日本語や日本の精神文化に与えた中国古典の重みを知ることとなると思われる。				
<b>張あんな</b>	らくらく中国語			
ナカニシヤ出版			96	著書 (その他)
このテキストは中国語を学ぶ大学生を対象とした教材である。発音・文型・会話を中心に構成されたもので、学習者がポイントとなる文法事項を効果的に把握できるように工夫したものである。また、日本人が中国人と接する時に、よく交わされるやりとりを平易な口語からなっている。				
<b>宮内順</b>	観光学への扉			
学芸出版社			pp. 132-150	著書 (その他)
観光学を志す学生を対象としたテキストブックとして編集。観光の歴史、マストツーリズムの限界、オルタナティブツーリズムの提唱などを初学者にも分かりやすく解説した。第7章「観光メディアの多様化」(132p-150p)及びコラム(旅行会社とパッケージツアー、地域ブランドの開発と課題、エコツーリズムの課題)を担当。執筆：井口貢、木下達文、古池嘉和、佐藤喜子光、滋野浩毅、杉田由紀子、高橋一夫、中島智、西村幸子、宮内順				
<b>赤井ひさ子</b>	インドの初等教員養成：教員養成政策に関する一考察			
東海大学短期大学紀要	第42号		pp. 1-6	学術論文 (紀要)
独立後のインドの初等教員養成について、連邦政府の政策の背景と特色を明らかにし、さらに、州自治を尊重するインドで全人口の約9%が居住するマハラシュトラ州に着目して早期に解決を要する質的改善などについての指摘を行った論文。初等教育の質的改善が強調される近年、初等教員養成の研究の進展が期待されており、今後の方向性を探った論文でもある。				
<b>伊原奉賢</b>	「韓国語発音規則」の教授方法について			
東海大学短期大学紀要	第42号		p. 95	学術論文 (紀要)
韓国語はハングル文字のバッチムと次に来る子音の種類によって発音が変わる発音規則をまとめながら、教授方法を論ずる。				
<b>大方優子</b>	大学生のハワイ観光地イメージ測定			
東海大学短期大学紀要	第42号		pp. 15-19	学術論文 (紀要)
日本人海外旅行者市場における代表的な旅行先の一つであるハワイをとりあげ、大学生を対象にハワイの観光地イメージを測定した。観光地イメージの測定にあたって、観光地イメージを構成する認知的イメージ、感情的イメージ、全体的イメージの3要素に着目し、それぞれの要素ごとに測定を行い、さらに要素間の関係性を分析した。				
<b>神山高行</b>	『ヴェニス商人』-貨幣と人が出会うとき-			
東海大学短期大学紀要	第42号		pp. 21-26	学術論文 (紀要)
イギリスの劇作家、ウィリアム・シェイクスピアの喜劇『ヴェニス商人』(1597)について、劇中にみられる商取引にからむ契約や法、また売買の手段となる貨幣をモチーフに論じたものである。				
<b>北濱幹士</b>	東海大学短期大学紀要			
東海大学短期大学紀要	第42号		pp. 101-105	学術論文 (紀要)
第39回海外研修航海における研修学生の日常生活より、洋上クラブに焦点を当て、制限された空間、物品、時間など陸上とは異なる環境である点に注目して、洋上でのレクリエーション活動について述べたものである。				
<b>竹内裕二</b>	離島住民参加型の島づくりに関する実践的研究			
東海大学短期大学紀要	第42号		pp. 55-62	学術論文 (紀要)
これからの離島振興においては、これまでのような経済面における行政への依存が難しい時代となった。それゆえ島民が行政からの施しを待つだけ、お願いだけといった他力本願的な考えでは、今まで以上の振興が望めない時期にきているといえる。つまり、外発的発展によって地域住民の生活の向上ができなかった中で内発的発展を目指し、島民自身が、自分たちの島の今後について、自らが考え、自らが動く島づくりを行なわなければならない。そのためには、島民が中心となり、外部資本の移入を視野に入れ、島外市民も含めた多くの市民によって取り組むことが求められる。本論文では、北九州市小倉北区に位置する藍島での島民主体の島づくり活動の動きについてまとめる。特に、本事例では地域の自立・自律を目指した「島民主体の島づくり行動計画」策定過程について報告する。				
<b>真下仁</b>	〈われわれの存在論〉を開く：日本的〈公-私〉構造と〈我々の存在論〉			
東海大学短期大学紀要	第42号		pp. 73-80	学術論文 (紀要)
〈われ〉と〈われわれ〉との関係を、人称、特に一人称の多彩な使用を可能にする日本語の中へと送り返し、そこに現出する〈公-私〉関係が示す日本的な存在論的構造と比較・考察する。				
<b>神山高行、真下仁</b>	東海大学福岡短期大学における大学編入指導 (補遺)			
東海大学教育研究所・研究資料集	No. 16		pp. 239-245	学術論文 (その他)
東海大学教育研究所・研究資料集 No.15 において発表した「東海大学福岡短期大学における大学編入指導」に続く補遺として、大学編入指導の現状と問題点を研究資料としてまとめた。				
<b>真下仁、神山高行、吉岡メリー、伊原奉賢、張あんな、赤井ひさ子、大方優子</b>	国際文化教育の戦略的展開－国際文化研究会の発足にあたり－			
東海大学教育研究所・研究資料集	No. 16		pp. 226-238	学術論文 (その他)
東海大学福岡短期大学において発足した国際文化研究会の2008年度の活動の紹介と今後の活動方針、また異文化教育についての展望などについて報告した。				
<b>北濱幹士</b>	東海大学福岡短期大学における東海大学短期大学(部)スポーツ大会への取り組み			
東海大学教育研究所 研究資料集	No. 16		pp. 15-160	学術論文 (その他)
東海大学福岡短期大学における東海大学短期大学(部)スポーツ大会への取り組みに関し、特に過去4年を遡ったものである。				
<b>竹内裕二</b>	地域住民の「自活考動」による骨太なまちづくり			
地域開発	527		pp. 33-36	学術論文 (その他)
市民のまちづくりへの関心が確実に高まってきている。この市民の動きは、かつての経済成長至上主義下での国家的・国民経済的観点からの都市形成を目的としたものとは異なり、生活者としての「市民発想」から身近な地域社会のあり方を見つめ直し、地域の住み心地よさの基本条件である、自然・歴史・文化、あるいは多様なまちの個性やそこに暮らす人々の地域への愛着心やアイデンティティを損なわないまちづくりの推進を求めていることの表われだと考えられる。 いわば、地域社会を主軸とした魅力ある都市を持続的・安定的に維持していくことであり、新たな地域社会を主軸としたまちづくり				

<p>の推進が今後の課題として提示される段階にきていると言える。このようなまちづくりの方向性は、従来の行政主導型のものではなく、地域の個性や多様な地域社会の資源を適切に活かすために地域社会に関わる「市民」・「企業」・「行政」などのパートナーシップによる地域社会全体での取り組みとしての「地域コミュニティ形成」への転換が基本的な課題となることを示している。</p> <p>本論文は、この課題を解決するために「継続」「ユニバーサル」「協働」の三視点に関する筆者の実践活動とその成果を基に今後の市民活動のあり方についてまとめ、全国各地の活動の参考にしてもらうためのものである。結論として、地域住民自身が、自分たちのまちについて、自らが活すために、自らが考え、自らが行動することが必要不可欠であることを示した。</p>			
<b>宮内順</b>	着地型観光への転換迫られる旅行会社		
財団法人東京市政調査会「都市問題」	2009年4月号	Pp.66-74	学術論文(その他)
<p>21世紀に入り、マスツーリズムの限界が指摘されるようになり、従来型のパッケージツアーを中心とした発地型観光(出発地で旅行を企画・運営する形態)の問題点が明らかになった。これに対し、地域における体験交流を中心に、環境保全を意識した新しい観光形態が注目されるようになってきている。この到着地で旅行を企画・運営する着地型観光への取り組みが、全国各地で見られるようになったが、旅行会社の取り組みはまだ十分ではない。この原稿は、平安女学院大学国際観光学部佐藤喜光教授との共著で、着地型観光への転換を迫られる旅行会社の課題を論じた。</p>			
<b>赤井ひさ子</b>	インドの初等教員養成：マハラシュトラ州の特色と課題 (独立後(1947年)の動向)		
アジア教育史学会第17回年次大会(二松学舎大学)			学会記録(一般発表)
<p>独立後のインドの初等教員養成について、連邦政府の政策の背景と特色を明らかにし、さらに、州自治を尊重するインドで全人口の約9%が居住するマハラシュトラ州に着目して初等教員養成の質的改善のための方策について検討した学会発表。</p>			
<b>神山高行 他2名</b>	「英語教育の教材として文学作品は有効か否か？」		
2008年度 日本英語表現学会 第15回研究会 パネル・ディスカッション			学会記録(シンポジウム)
<p>2008年度 日本英語表現学会 第15回研究会(開催日:12月6日 16:00-17:30、会場:跡見学園女子大学)におけるパネル・ディスカッションのパネリストの一人(他2名、早稲田大学講師:青柳文男、道都大学准教授:横田肇)として口頭発表を行った。テーマは、「英語教育の教材として文学作品は有効か否か?」、というもので、発表者は、(英米)文学作品の教材としての利点を擁護する立場として、日本の英語教育の歩み、(英米)文学作品の需要と現状、昨今の実用英語偏重への批判と文学作品の教材としての有効性、大学・短大での(英米)文学作品を用いた授業例、などについて発表した。</p>			
<b>神山高行</b>	日本英語表現学会 第37回大会 研究発表の司会を担当		
日本英語表現学会			学会記録(その他)
<p>日本英語表現学会 第37回大会(日時:6月22日 会場:成城大学3号館2階 32A教室)において研究発表の司会を担当。発表者と研究発表の題目はそれぞれ、村松直子氏(青山学院大学院生):『燈台へ』にみられる一元的宇宙論、佐藤麻耶子氏(東海大学院生):Jane Erveの意図-フェミニズムの視点から、能勢卓氏(聖トマス大学):Days Without Endのdialogueの形成過程、であった。</p>			
<b>北濱幹士</b>	東海大学海外研修航海におけるレジャー活動		
九州レジャー・レクリエーション学会			口頭発表(一般発表)
<p>洋上レジャー活動に焦点を当て、44日間に渡り行われた第39回東海大学海外研修航海よりその活動を報告するものである。</p>			
<b>竹内裕二</b>	地域共同参画型インターンシップ授業の実践的研究 第二報		
日本教育工学会	第24回	pp.399-400	口頭発表(一般発表)
<p>第一報では、本学に仮想会社を設立し、学生を社員、地域の企業・市民・行政・教員を上司とした会社組織による授業運営を行っていることを報告した。今回の報告は、本授業とまちづくりとの関係について述べたものである。</p>			
<b>大方優子</b>	日本におけるエコツアーの類型		
東海大学福岡短期大学観光文化研究所所報	第12号	pp.15-20	その他の文筆活動
<p>現在日本において実施されているエコツアーをその形態や目的から整理し、それぞれのパターンにおける現状と課題について、主にマーケティングの視点から考察した。</p>			
<b>神山高行</b>	沖縄-雑感-		
東海大学福岡短期大学観光文化研究所所報	第12号	pp.51-54	その他の文筆活動
<p>沖縄旅行についてのエッセイ。</p>			
<b>北濱幹士</b>	学校法人東海大学 第39回海外研修航海に参加して ~日記より~		
東海大学福岡短期大学観光文化研究所所報	第12号	pp.37-49	その他の文筆活動
<p>第39回海外研修航海団役員として「望星丸」に乗船し、南太平洋諸島5カ国に寄港した日々の手記を綴ったものである</p>			
<b>竹内裕二</b>	離島問題と観光地化に向けた島づくりの可能性 -北九州市小倉北区藍島を事例として-		
東海大学福岡短期大学観光文化研究所	第12号	pp.21-29	その他の文筆活動
<p>本論文は、離島の活性化を島民が中心となって、島外市民を含めた市民参加の島づくりの視点を踏まえ、島民・島外市民・企業・行政の四者が自分たちの地域資源としての島の活性化のために、島民自らが考え、自らが動く島づくりを目指す協働参画型社会の可能性を社会実験によって模索し、今後他島へ普及させるための課題を明確にしておくことにある。本論文は、離島での社会実験を実施する事前調査として、全国の離島の現状、調査地点の現状についてまとめ、今後実施する観光地化に向けた島づくりの実施の可能性と方向性を示した。</p>			
<b>張あんな</b>	中国と日本文化の相違点一和について		
東海大学福岡短期大学観光文化研究所所報	第12号	pp.57-64	その他の文筆活動
<p>日本と中国との観光交流の重要性が強く認識される一方、なお観光交流にはさまざまな問題点がある。グローバル化の進んだ現代社会では、人と人との間ばかりでなく、国と国との間にも、協調・連帯が必要である。そのことを「和」と言うが、日本と中国とではこの「和」をめぐる違いがある。互いの文化の違いが分かれば、相手国を訪れた観光客にこの国の本当の素晴らしさや魅力を知ってもらえると思う。</p>			
<b>宮内順</b>	九州における中国人旅行者受け入れの現状と課題		
東海大学福岡短期大学観光文化研究所所報	第12号	pp.3-13	その他の文筆活動
<p>東アジアからの旅行者の増加は、九州にとってきわめて重要な意味をもっている。現状では韓国からの旅行者が主流であるが、中国の経済発展により、中国人旅行者の市場拡大が目立っており、今後、中国人旅行者の受け入れが重要な課題になることは明らかである。観光文化研究所では、西南女学院大学の観光グループとの共同研究により、中国人旅行者の現状把握と課題の抽出を図っており、この原稿は九州側の受入状況について、関係機関にインタビュー調査を行った中間報告としてまとめたものである。</p>			
<b>吉岡 メリーエレン</b>	Visiting Northern Maine		
東海大学福岡短期大学観光文化研究所所報	第12号		その他の文筆活動
<p>メイン州北部を訪ねて</p>			

### 3) その他の社会活動

- a. 専任教職員が官公庁等学外機関、本学園の広報機関等への公的な発表、専門知識や学識経験等を生かした活動

#### <研究業績表の見方>

発表者・活動者	テーマ・タイトル
発表・活動の場所もしくは取組名称	
概要	

#### <研究業績内容>

<b>宮川幹平</b>	セキュリティ最新事情
宗像市ルックルック講座	
インターネットにおける最近の脅威の傾向として、誘導型攻撃や標的型攻撃、ゼロデイアタックなどを紹介し、ウイルス対策ソフトウェアの運用やセキュリティアップデートの適用などの一般的対策だけではなく、万が一被害にあったときの対応（バックアップやデータ暗号化など）が重要になることを説明した。 また、次期 OS（Windows7）のベータ版評価を行った。	
<b>大方優子</b>	地域と環境
宗像市「むなかた協働大学」	
国内外のエコツーリズム事例をとりあげながら地域と環境の関わりについて考察する。	
<b>竹内裕二</b>	ブランドとは、何か？
福岡県立小倉商業高等学校	
福岡県立小倉商業高等学校は、福岡県教育委員会からの指定され「経営者能力育成」推進校となった。この経営者能力を育成するため、この高校が取組んでいる「ブランド開発」を基礎から支援するという位置づけから、ブランドの歴史、見方、考え方、ブランドづくりなどについて講義を行った。	
<b>宮内順</b>	観光の基礎
宗像市「むなかた協働大学」	
宗像市が主催し、市内の3大学の協力で実施しているむなかた協働大学の観光アドバイザーコースとして、観光の基礎について講義。	
<b>宮内順</b>	観光の歴史
宗像市「むなかた協働大学」	
観光アドバイザーコースの第2回として観光の歴史について講義。	
<b>宮内順</b>	今日の観光
宗像市「むなかた協働大学」	
観光アドバイザーコースの第3回として今日の観光について講義。	
<b>宮内順</b>	観光に優しい旅
中間市	
中間市中央公民館が実施している「きらめき大学」で環境に優しい旅をテーマに講演。	

- b. 専任教員が研究所・官公庁・民間等の学外機関から委嘱を受け、専門知識学識経験等を生かした公的活動

氏名	委嘱機関名	委嘱内容
貝田 翔二	財団法人熊本県起業支援センター	投資先選定審査会委員
末松 泰子	宗像市	宗像市人づくり・まちづくり研究所研修講師
宮川 幹平	宗像市	宗像市情報化推進会議委員及び専門部会委員
宮川 幹平	短期大学基準協会	第三者評価評価員
矢原 充敏	九州造形短期大学	FD研修会講師
八尋 剛規	福岡市教育センター	研究発表会に係る事前指導
大方 優子	宗像市	宗像市市民文化・芸術活動審議会委員
大方 優子	福岡県立ひびき高等学校	近未来ガイダンス講師
大方 優子	宗像市	宗像市都市計画審議会委員
大方 優子	宗像市	宗像市道路網整備計画策定委員会委員
竹内 裕二	芦屋町役場	芦屋町協働のまちづくり職員研修会講師
竹内 裕二	宗像市	宗像市人づくりでまちづくり事業審査委員会委員
竹内 裕二	とよた市民活動センター	つなぎすと要請講座おさらい集中研修講師
竹内 裕二	大牟田市中央地区公民館	地域のふれあいマップ作り講師
竹内 裕二	北九州市立立年長者研修大学「周望学舎」	研修講師
竹内 裕二	芦屋町役場	職員研修講師
竹内 裕二	福岡県立若松商業高等学校	社会人特別講師
竹内 裕二	福岡県立小倉商業高等学校	経営能力育成授業講師
竹内 裕二	福岡県立ひびき高等学校	近未来ガイダンス講師

竹内 裕二	美萩野女子高等学校	社会人招聘授業講師
竹内 裕二	九州造形短期大学	F D 研修会講師
竹内 裕二	北九州市	北九州市水際線利用協議会委員
竹内 裕二	北九州市	渡船を愛する会理事
竹内 裕二	福岡県	芦屋の里浜づくり実行委員会委員長
竹内 裕二	芦屋町	芦屋町住民参画推進会議委員長
竹内 裕二	宗像市	社会教育委員
真下 仁	宗像市	夫婦の暮らし応援講座講師
真下 仁	宗像市	宗像市男女共同参画推進懇話会委員
真下 仁	宗像市	宗像市国際交流委員
宮内 順	宗像市	観光振興を目指す食と農の循環研究会委員
宮内 順	宗像市	宗像市地域公共交通活性化協議会委員
宮内 順	宗像市	むなかた季良里認定事業委員会委員
宮内 順	宗像市	宗像市渡船運営審議会運営委員
宮内 順	国土交通省	宗像沿岸地域総合管理研究会委員

### c. 学会等の運営に関する活動

氏名	学会名	委員名
赤井 ひさ子	アジア教育史学会	理事
赤井 ひさ子	アジア教育学会	理事
赤井 ひさ子	日本南アジア学会	実行委員

### d. 専任教員が外部の大学へ非常勤として出講

氏名	委嘱機関名	委嘱内容
大方 優子	九州産業大学	非常勤講師 2008. 4. 1～2009. 3. 31 春1コマ・秋1コマ
佐竹 則昭	九州共立大学	非常勤講師 2008. 4. 1～2008. 9. 30 春2コマ
佐竹 則昭	西南学院大学	非常勤講師 2008. 4. 1～2009. 3. 31 通年1コマ
宮内 順	サイバー大学	非常勤講師 2008. 4. 1～2009. 3. 31 インターネット 通年1コマ
宮川 幹平	西南学院大学	非常勤講師 2008. 4. 1～2009. 3. 31 通年2コマ
矢原 充敏	熊本県立技術短期大学	非常勤講師 2008. 4. 1～2009. 3. 31 通年1コマ
八尋 剛規	北九州市立大学	非常勤講師 2008. 4. 1～2008. 9. 30 春1コマ・春集中2
八尋 剛規	福岡教育大学	非常勤講師 2008. 10. 1～2009. 3. 31 秋2コマ・秋集中1
貝田 翔二	東海大学熊本校舎	非常勤講師 2008. 4. 1～2009. 3. 31 通年3コマ

## (2) 海外活動

専任教員が海外において講演・調査・研究等で活動

氏名	目的	期間	国名
矢原 充敏	国際会議	6月17日～6月21日	中国
伊原 奉賢	韓国短期留学引率	8月5日～8月19日	韓国
赤井 ひさ子	科研費補助金による研究	9月6日～9月22日	インド
神山 高行	ハワイ短期留学引率	9月10日～9月19日	アメリカ
吉岡 マーエレン	ハワイ短期留学引率	9月10日～9月19日	アメリカ
伊津 信之介	論文発表	12月11日～12月16日	中国
チョウ アンナ	中国短期留学引率	3月1日～3月14日	中国

### (3) 科研費応募・採択状況

応募・・・研究代表者分 1 件 (継続 1)  
    <研究種別>                    <件数>  
        基盤研究 (C)                    1 件  
・・・研究分担者分 0 件

研究代表者 赤井 ひさ子 准教授 ……基盤研究 (C)  
研究課題 地域に根ざした初等教育養成：インド・マハラシュトラ州・県教育研究所の新戦略  
補助金額 220 万円 (平成 18：70 万円、同 19：70 万円、同 20：80 万円)

## 2. 研究のための条件

個人研究費は、2002 年度より、研究の活性化および研究費の効率的運用のため、2 段階支給を採用している。まず、教員全員に一律 15 万円が配分される他に、特別研究費枠 (第 1 種から第 5 種) を設け、積極的に研究活動を行う教員には必要なより多くの研究費が配分される仕組みを作っている。なお、2006 年度から若手教員育成支援として学位 (博士) 審査経費についても対象とした。申請の条件は、本学内規の「特別研究費の取り扱いに関する規定」に明記されているが、FD 委員会及び企画調整会議で検討された上、教授会で審議・決定される。

### (1) 研究費

各個人単価 15 万円

### (2) 特別研究費

#### 1) 特別研究費に関する規定

特別研究費の種別については、次の 5 種とする。

第 1 種：

国内外の学会・研究会での発表、論文投稿・掲載・別刷りなど研究成果の公表に必要な経費等の補助

第 2 種：

個人・グループ・学科の研究開発 (教育に関する研究開発も含む) に対する経費の補助

第 3 種：

私大教育研究高度化推進特別補助 (文部科学省執行) 及び特別補助 (事業団執行) への申請のための 2 分の一財源の補助 (確保)

第 4 種：

学位 (博士) 審査の申請、及び、審査上必要となる経費 (申請費用・旅費・博士論文別刷り代など) の補助

第 5 種：

その他、上記以外で特に必要と思われる研究開発 (教育に関する研究開発も含む) の補助

特別研究費の取り扱いについては以下の通りとする。

- 特別研究費の申請は、随時 FD 委員会で受け付けする。申請期限は、12 月 31 日までとする。
- 特別研究費申請の採択については、FD 委員会の予備審査を経て、企画調整会議で審査する。
- 第 1 種のうち、海外で開催される学会への旅費は総研 A 計画に準じて上限を 15 万円とする (年度につき教員一人あたり最大 2 回まで)。
- 第 1 種のうち、国内で開催される学会への旅費は原則として上限 5 万円とする (年度につき教員一人あたり最大 4 回まで)。
- 第 2 種は、個人・グループ・学科共、当面申請額について精査し、補助額を決定する。
- 申請が採択された場合、特別研究費による研究活動について、当該年度中に報告書を提出しなければならない。なお、報告書の書式は任意とし、提出先は FD 委員会とする。

※補足

- 同一行程における複数学会発表の第 1 種申請の旅費支給の上限は 50,000 円 (国内で開催される学会の場合)
- 第 1 種申請の学会発表に伴う補助は、旅費 (宿泊費は除く) 及び学会参加費とする。



## 2) 2008年度特別研究費実績

種別	申請者	発表学会・研究会名	研究(開発)課題名	決定額
1種	矢原充敏	Third International Conference on Innovative Computing, Information and Control 2008	A Dividing Ratio Changeable Digital PLL with Low Output Noise	127,825 円
1種	竹内裕二	日本教育工学会	地域協働参画型インターンシップ授業の実践的研究 第二報	58,500 円
1種	伊津信之介	中国日語教学研究会	日本語学習にふさわしい教材管理システム「ELMM」の開発	160,000 円
1種	矢原充敏	2008 International Symposium on Intelligent Informatics	A Multiplier with Low Jitter Using Multi-phase Clock Divider	29,520 円
1種	北濱幹士	九州レジャー・レクリエーション学会	東海大学海外研修航海におけるレジャー活動	8,300 円

## (3) 研究に係る経費

### 2008年度決算 研究経費

項目	情報処理工学科	国際文化学科	合計
用品費	268,840	68,000	336,840
消耗品費	1,032,858	1,221,870	2,254,728
図書資料費	125,181	614,145	739,326
旅費交通費	442,840	372,580	815,420
印刷製本費	30,620	0	30,620
通信運搬費	1,060	0	1,060
修繕費	8,400	37,800	46,200
賃借費	0	186,209	186,209
諸会費	117,000	99,690	216,690
委託費	103,969	0	103,969
雑費	0	76,910	76,910
合計	2,130,768	2,677,204	4,807,972